



りんご生産情報

令和2年11月27日発表

青森県「攻めの農林水産業」推進本部

令和2年産りんごの生産概況

1 全体の概要

本年の気象は、気温は平年並みからやや高かった。降水量は平年より多く、日照時間は平年よりやや少なかった。

結実状況は、一部園地で降霜、低温、日照不足などの影響によるカラマツ（不受精花）が見られたが、各品種とも概ね標準着果量を確保できた。

果実肥大は、順調に推移し、最終的な果実横径は平年並みから平年をやや上回った。

果実品質は、肥大、着色が良く、概ね良好に仕上がった。

病虫害では、腐らん病の発生が多く、一部園地ではハダニ類の発生も見られた。また、輪紋病の樹上での果実腐敗がやや多かったほか、津軽地域でヨトウガの幼虫による新梢葉の被害が散見された。

2 気象（黒石：りんご研究所）

(1) 気温

4月中下旬、7月中下旬及び11月上旬を除き、平年並みから高く推移し、真夏日を28日、猛暑日は1日（9月3日に35.0℃）観測した。特に、3月及び9月上旬は最高、最低及び平均気温が観測史上第1位に高かった。

(2) 降水量

積雪深は1月上旬及び2月上旬に一時平年並みまたは平年を上回って推移したものの、それ以外の期間は平年を大きく下回った。今冬の最深積雪は2月10日の97cmで平年並みであった。年明け以降、気温が高めに推移したことから、消雪日は3月9日と平年（3月29日）より20日早く、観測史上2位タイであった。

降水量は10月を除き、平年並みから多く推移した。特に9月は217mmで平年に比べて165%と多く、4月から10月までの総降水量は831mm（平年比121%）と多かった。

(3) 日照時間

5月下旬から6月上旬、7月中旬及び8月下旬から9月上旬を除き、平年並みから少なく推移した。特に、4月は平年に比べて73%と少なく、4月から10月までの総日照時間は1,125.7hr（平年比95%）と少なかった。一方、9月上旬は平年比159%と観測史上第1位に多かった。

3 生育ステージ（発芽～落花）

黒石でのふじの発芽日は、平年より11日早い3月29日、展葉日は6日早い4月13日であった。開花日は、平年より1日早い5月7日、満開日は平年より2日早い5月11日、落花日は平年より3日早い5月14日であった。

五戸（りんご研究所県南果樹部）でのふじの発芽日は、平年より10日早い3月30日、展葉日は平年より2日早い4月18日であった。開花日は平年より2日早い5月8日、満開日は平年より4日早い5月11日、落花日は平年より5日早い5月15日であった。

4 開花・結実と着果状況

開花量は、各品種とも平年より多かった。結実状況は、一部園地で降霜、低温などの影響によりカラマツ（不受精花）が見られたが、各品種とも概ね標準着果量を確保できた。

摘果作業は、果実の初期肥大や形状等にバラツキが見られ、見極めに時間がかかり、例年より作業が遅れた園地が見られた。7月中旬時点での着果率は、つがる42.0%、ジョナゴールド38.6%、王林41.0%、ふじ37.0%で、いずれの品種とも標準着果量を大きく上回っていた。

5 果実肥大（横径）

落花日以降、一時的に低温や日照不足になったものの、その後、天候が回復したことから、果実の初期生育は平年を上回った。黒石における6月1日時点での果実横径は、ふじが1.7cm（平年比113%）、つがるが2.0cm（平年比118%）、ジョナゴールドが2.2cm（平年比122%）で、各品種とも平年に比べて2～4mm大きかった。その後も、定期的な降雨により、順調に肥大し、最終調査時における果実横径は、つがるが9.4cm（平年比107%）、ジョナゴールドが10.1cm（平年比107%）、ふじが9.0cm（平年比101%）であった。地域県民局の県生育観測ほのふじも、青森市、弘前市、板柳町では、平年をやや上回っており、三戸町では平年並であった。

6 収穫期

黒石での果実熟度の進みは、早生品種及び晩生品種は平年より3日程度早く、中生品種では平年並みからやや早かった。

収穫始めは、つがるが9月7日頃、トキが9月27日頃、早生ふじが9月28日頃、ジョナゴールドが有袋果で10月13日頃、無袋果で10月15日頃、ふじが有袋果で10月27日頃、無袋果で11月1日頃であった。

7 果実品質（黒石：りんご研究所）

つがるは、平年に比べて糖度はやや高く、硬度、ヨード反応及び着色指数はやや低く、酸度は低かった。

ジョナゴールドは、ヨードでんぷん反応指数は同程度、酸度及び着色指数はやや低く、硬度及び糖度は低かった。

ふじの有袋果は、硬度、糖度、酸度、ヨード反応及び着色指数は低かった。無袋果

は、糖度、着色指数及び蜜果率は同程度、硬度はやや低く、酸度、ヨード反応及び蜜程度は低かった。

8 主要病害虫の発生状況

(1) 病害

初発日は、モニリア病と黒星病が平年より早く、褐斑病と斑点落葉病は平年より遅かった。

腐らん病が多かった。うどんこ病は一部園地でやや多かった。すす斑病、すす点病が散見された。また、輪紋病による樹上での果実腐敗がやや多かった。その他の病害の発生は少なかった。

(2) 害虫

発生時期は、キンモンホソガが平年よりやや早く、リンゴハダニ及びミダレカクモンハマキが平年並みであった。モモシンクイガは成虫羽化の初発日が平年よりやや遅く、産卵の初発日が平年並み、また、成虫羽化及び産卵の終息日は遅かった。

ナミハダニが一部園地でやや多く、リンゴハダニが散見された。津軽地域においてヨトウガの幼虫による新梢葉の被害が散見された。その他の虫害は少なかった。

9 生理障害等

ジョナゴールドや王林などでビターピットの発生が目立った。

ふじのつる割れは、平年並みの発生であった。

10 気象災害

8月下旬から9月上旬の猛暑により、早生品種を中心に日焼け果が見られた。

特に9月3日は、黒石で35℃を観測するなど、津軽地方を中心に記録的な暑さとなり各地で被害がみられた。

※令和3年りんご生産情報第1号は、令和3年4月上旬頃発表の予定。

連絡先：りんご果樹課生産振興グループ
電話番号：017-722-1111代表
内線5092、5097
017-734-9492直通